

三菱電機産業冷熱機器用
別売品
リプレースフィルタ [業務用]
形名
R-F75A

もくじ	
安全のために必ず守ること	2
1. 使用範囲	5
2. 再利用対象設備の確認	5
3. 製品各部の名称	6
4. 付属品	6
5. 作業方法	7
6. フィルタの取付方法	10
7. リプレース運転の実施方法	10
8. 冷却運転への移行	11
9. 油交換について	11
10. 鉱油混合率のチェック方法	11

据付工事説明書 (販売店・工事店様用)

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい取付工事が必要です。取付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。

- この製品は国内専用です。日本国外では使用できません。
This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.


※既設配管および冷却器の再利用について


HFC 冷媒への転換時には、コンデンシングユニット・ショーケース・ユニットクーラのほか、配管も新規に交換していただくことが不純物の混入を抑え機器の信頼性や安全性を確保できる標準的に推奨する施工方法です。

しかし、据付工事の現場によっては埋め込み配管等を使用しており、新たに配管施工することが困難な場合に既設の配管を使わざるを得ない場合があります。ただし、現地システムは多様であり、異物・油の残留量も各システムにおいて様々であることから、既設配管等を再利用した設備を保証するものではありません。このようなリスクを施工主様、ユーザー様にご理解いただいたうえで本製品をご利用ください。

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、据付けてください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

 **警告** 取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度

 **注意** 取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- 図記号の意味は次のとおりです。



- お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しく下さい。
- お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しく下さい。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しく下さい。

警告

冷凍保安規則に基づき、機器の設置又は変更の工事を完成したときは、設計圧力以上の圧力で行う気密試験を行う。

ろう付け作業は、冷凍空気調和機器施工技能士（1級及び2級に限る。）又はガス溶接技能講習を修了した者、その他厚生労働大臣が定めた者が行うこと。

一般事項

警告

当社指定の冷媒以外は絶対に封入しないこと。

- 使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災のおそれあり。
- 法令違反のおそれあり。

封入冷媒の種類は、機器付属の説明書・銘板に記載し指定しています。

指定冷媒以外を封入した場合、故障・誤作動などの不具合・事故に関して当社は一切責任を負いません。



運転中および運転停止直後の冷媒配管・冷媒回路部品に素手で触れないこと。

- 冷媒は、循環過程で低温または高温になるため、素手で触れると凍傷・火傷のおそれあり。



換気をよくすること。

- 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
- 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。



特殊環境では、使用しないこと。

- 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用した場合、著しい性能低下・腐食による冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・故障・発煙・火災のおそれあり。



ユニットの廃棄は、専門業者に依頼すること。

- ユニット内に充てんした油や冷媒を取り除いて廃棄しないと、環境破壊・火災・爆発のおそれあり。



改造はしないこと。

- 冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



⚠ 注意

作業するときは保護具を身につけること。

- ◆ けがのおそれあり。



けが注意

ユニット内の冷媒は回収すること。

- ◆ 冷媒は再利用するか、処理業者に依頼して廃棄すること。
- ◆ 大気に放出すると、環境破壊のおそれあり。 指示を実行



指示を実行

据付工事をするときに

⚠ 警告

専門業者以外の人に触れるおそれがあるところにユニットを設置しないこと。

- ◆ ユニットに触れた場合、けがのおそれあり。



据付禁止

販売店または専門業者が据付工事説明書に従って据付工事を行うこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



指示を実行

梱包材は破棄すること。

- ◆ 窒息事故のおそれあり。



指示を実行

冷媒が漏れた場合の限界濃度対策を行うこと。

- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。(ガス漏れ検知器の設置をすすめます。)



指示を実行

配管工事をするときに

⚠ 警告

使用できる配管の肉厚は、使用冷媒・配管径・配管の材質によって異なる。配管の肉厚が適合していることを確認し、使用すること。

- ◆ 不適合品を使用した場合、配管が損傷し、冷媒が漏れ、酸素欠乏のおそれあり。



破裂注意

冷媒が漏れていないことを確認すること。

- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。
- ◆ 冷媒が火気に触れた場合、有毒ガス発生のおそれあり。



指示を実行

冷媒回路は、真空ポンプによる真空引き乾燥を行うこと。冷媒による冷媒置換をしないこと。

- ◆ 指定外の気体が混入した場合、破裂・爆発のおそれあり。



爆発注意

気密試験はユニットと工事説明書に記載している圧力値で実施すること。

- ◆ 記載している圧力値以上で実施した場合、ユニット損傷のおそれあり。
- ◆ 冷媒が漏れた場合、酸素欠乏のおそれあり。



指示を実行

加圧ガスに塩素系冷媒・酸素・可燃ガスを使用しないこと。

- ◆ 使用した場合、爆発のおそれあり。
- ◆ 塩素により冷凍機油劣化のおそれあり。



爆発注意

配管接続部の断熱は気密試験後に行うこと。

- ◆ 断熱材をつけた状態で気密試験を行うと冷媒漏れを検知できず、酸素欠乏のおそれあり。



指示を実行

配管を加熱する場合は内部の封入ガスを取り除くこと。

- ◆ 破裂・爆発のおそれあり。



爆発注意

現地配管が部品端面に触れないこと。

- ◆ 配管が損傷し、冷媒が漏れ、酸素欠乏のおそれあり。



指示を実行

再使用する既設冷媒配管に腐食・亀裂・傷・変形がないことを確認すること。

- ◆ 配管損傷・冷媒漏れ・酸素欠乏のおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

冷媒回路内に、指定の冷媒以外の物質(空気など)を混入させないこと。

- ◆ 異常な圧力上昇による破裂・爆発のおそれあり。



爆発注意

移設・修理をするときに

警告

移設・修理をする場合、販売店または専門業者に依頼すること。分解・改造はしないこと。

- ◆ 不備がある場合、冷媒漏れ・水漏れ・けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

お願い

ユニット内の冷媒は回収し、規定に従って廃棄してください。

- ◆ 法律（フロン排出抑制法）によって罰せられます。

天井内配管・埋設配管の接続部には点検口を設けてください。

- ◆ 点検できないおそれあり。

下記に示す工具類のうち、旧冷媒（R22）に使用していたものは使用しないこと。R463A-J、R410AまたはR449A専用の工具類を使用してください。（ゲージマニホールド・チャージングホース・ガス漏れ検知器・逆流防止器・冷媒チャージ用口金・真空度計・冷媒回収装置）

- ◆ R463A-J・R410Aは冷媒中に塩素を含まないため、旧冷媒用ガス漏れ検知器には反応しない。
- ◆ 旧冷媒・冷凍機油・水分が混入すると、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

冷媒配管はJIS H3300「銅及び銅合金継目無管」のC1220のリン脱酸銅を、配管継手はJIS B 8607に適合したものを使用してください。配管・継手の内面・外面ともに硫黄・酸化物・ゴミ・切粉・油脂・水分が付着していないことを確認してください。

- ◆ 冷凍機油劣化・圧縮機故障のおそれあり。

配管は屋内に保管し、ろう付け・フレア接続する直前まで両端を密封しておいてください。継手はビニール袋に包んで保管してください。

- ◆ 冷媒回路内にほこり・ゴミ・水分が混入した場合、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

窒素置換による無酸化ろう付けをしてください。

- ◆ 冷媒配管の内部に酸化皮膜が付着した場合、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

既設冷媒配管の使用可否をマニュアルに従って確認してください。

- ◆ 油の種類によっては鉱油回収が悪く、新しい冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。
- ◆ 使用範囲を超えると、鉱油回収性能が悪化し、新しい冷凍機油を劣化させるおそれあり。

冷媒配管工事は既設ユニットにて鉱油回収運転を完了してから行ってください。

- ◆ 鉱油が多量に混入した場合、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

吸入配管に取り付けしないでください。

- ◆ 冷媒配管内部のコンタミネーション除去が不十分となり、冷凍機油の劣化・圧縮機故障のおそれあり。

1. 使用範囲

本フィルタの使用範囲は下表のとおりです。

形名		R-F75A		
適合コンデンシングユニット(※1)		当社R410A スクロールコンデンシングユニット 2.2、3.0、7.5~33.5(※5,※7)	当社R463A-J/R410A スクロールコンデンシングユニット 7.5~33.5(※5,※7)	当社R404A スクロールコンデンシングユニット 2.2~15.0(※6,※8)
冷媒		R410A	R463A-JまたはR410A	R404A
対応 コンデンシング ユニット	入れ換え前	冷媒:R12、R502、R22 冷凍機油:鉱油(SUNISO 3GS(D)、パーレルフリーズ32SAM) 機種容量:~15.0kW		
	入れ換え後	当社R463A-J、R410A、R404A対応スクロールコンデンシングユニット(※2) (インバータ機、定速機、一体空冷機、リモート機) 機種容量:2.2kW~33.5kW		
対応最大配管長さ (※9)	液管	100m		50m
	ガス管	100m(※3)		50m(※3)
対応可能な 冷却器	ユニットクーラ の場合	-		1系統に接続されているユニットクーラ2台まで (ただし、1系統に3台以上のユニットクーラが接 続されている場合は、総負荷容量の70%まで) (※4)
	ショーケース の場合	-		1系統に接続されている総負荷容量の70%まで (※4)

- ※1.R404Aコンデンシングユニットによるリプレースにて上記の条件を満たせない場合は、配管の新規施工または以下のいずれかの方法を実施してください。
- ・本フィルタによるリプレース運転実施後に、圧縮機油中の鉱油混合率が右記になるまで油交換を繰返し実施してください。
 - ・当社リプレースキットまたは日本冷凍空調工業会の方式による方法を実施してください。

	鉱油混合率
R404A	10wt%以下

- ※2.他社製コンデンシングユニットへの使用はできません。
- ※3.ガス延長配管は、一体空冷機の場合は吸入ガス配管(負荷装置側~コンデンシングユニット)を、リモート機の場合は吐出延長配管(圧縮ユニット~リモートコンデンサ)と吸入ガス延長配管(負荷装置側~圧縮ユニット)の合計値です。
- ※4.1系統に接続される負荷装置能力の合計値に対し、70%以下の台数まで対応可能です。
(例):1台のコンデンシングユニットに同じ容量の負荷装置が10台接続されている場合、7台まで対応可能です。
- ※5.R463A-J、R410Aコンデンシングユニット容量15.0~22.5kW対応はリプレースフィルタを2個並列、26.0~33.5kW対応はリプレースフィルタを3個並列に接続してください。
- ※6.R404Aコンデンシングユニット容量9.7~15.0kW対応は、リプレースフィルタを2個並列に接続してください。
- ※7.R463A-J、R410Aコンデンシングユニットによるリプレースは、リプレース運転後に鉱油混合率の確認を行い、鉱油混合率が6wt%以下になるまで油交換を繰返し実施してください。または日本冷凍空調工業会の方式による方法を実施してください。
- ※8.R404Aコンデンシングユニット容量15.0kW以上対応については、リプレースキットを2台使用することで対応してください。
- ※9.対応配管長さは機種によって異なります。各機種の最大配管長さ以内でご使用ください。

2. 再利用対象設備の確認

再利用の対象は既設配管および負荷側装置です。下記項目により再利用の可否を判断してください。

2.1 既設配管

既設配管を再利用する場合は、以下の内容をご確認ください。

- ①既設配管の肉厚は、HFCコンデンシングユニットの基準を満たしていること(下表を参照してください)。
- ②既設配管にヘコミ、割れ、腐食がないこと。

上記を満足しない場合は再利用できません。新規配管へ入れ換えまたは不具合箇所の修正を実施してください。

R404A冷媒設備の配管肉厚表(mm)

O・OL材			
銅管外径	肉厚	銅管外径	肉厚
9.52	0.80	22.22	1.15
12.7	0.80	25.4	1.30
15.88	1.00	28.58	1.45
19.05	1.00	31.75	1.60

R463A-J、R410A冷媒設備の配管肉厚表(mm)

O・OL材	
銅管外径	肉厚
9.52	0.80
12.7	0.80
15.88	1.00
19.05	1.20

R463A-J、R410A、R404A冷媒設備の配管肉厚表(mm)

1/2H・H材			
銅管外径	肉厚	銅管外径	肉厚
9.52	0.80	22.22	1.00
12.7	0.80	25.4	1.00
15.88	1.00	28.58	1.00
19.05	1.00	31.75	1.10

表はJIS B 8607より引用

既設の配管径とコンデンシングユニット推奨の配管径が異なる場合は以下のとおり対応してください。

液配管

HFCコンデンシングユニットに対する既設配管の径	既設配管 再利用可否
同じ	対応可能
大きい	
小さい	対応可能(※1)

ガス配管

HFCコンデンシングユニットに対する既設配管の径	既設配管 再利用可否
同じ	対応可能
大きい	対応可能(※2)
小さい	対応可能(※3)

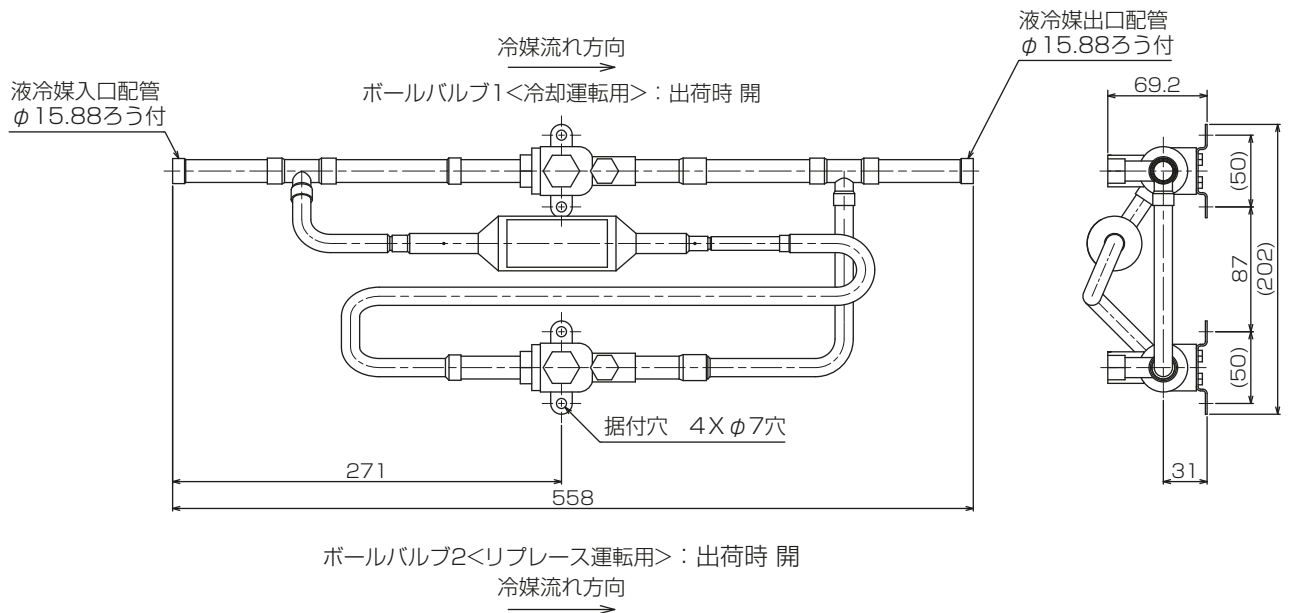
- ※1. 液管にフラッシュガスが発生しないように過冷却を取る対策が必要です。
- ※2. 冷却運転中に油戻りが悪くなり、圧縮機の油不足となることがあります。油戻りを十分考慮してください。
- ※3. 配管での圧力損失により冷却能力が低下します。能力低下をご確認のうえ再利用可否を判断してください。
現地接続配管径は使用するコンデンシングユニット仕様書に記載している適正配管径の1ランクダウンまでとしてください。

2.2 負荷側装置(ショーケース、ユニットクーラ)

負荷側装置(ショーケース、ユニットクーラ)を再利用する場合は、以下の内容にご注意ください。

- ① 負荷側装置はHFC冷媒のシステムで再利用可能であることをメーカーへご確認ください。
- ② 電磁弁および膨張弁は使用する冷媒の対応品へ交換してください。

3. 製品各部の名称



4. 付属品

この製品には下記の部品が付属されていますので、ご確認ください。

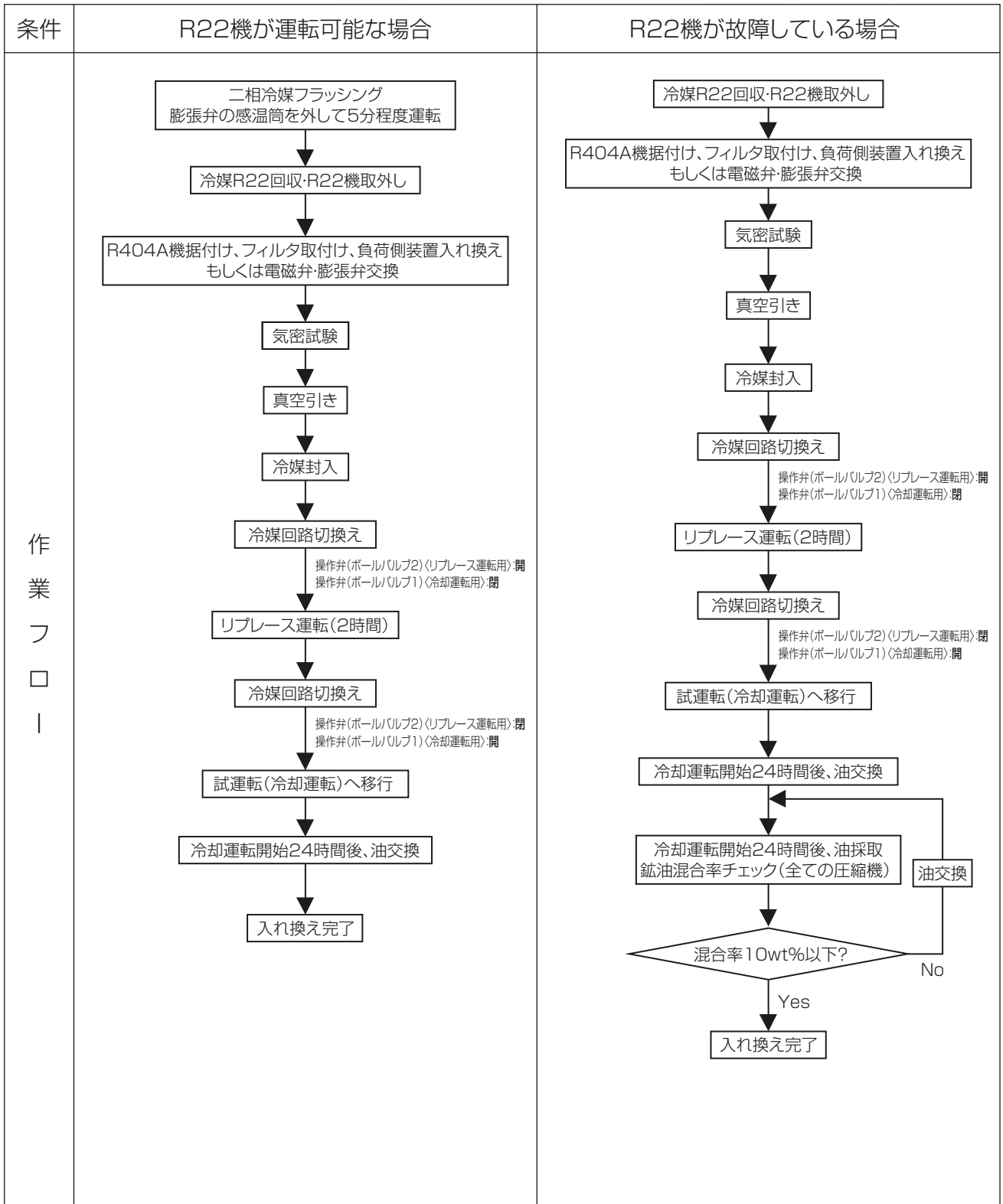
部品名	接続ジョイント1	接続ジョイント2
部品図		
個数	2	2

接続ジョイント1および2は、対応機種の液配管径が本製品の接続配管径(φ15.88)と異なる場合に使用してください。ジョイント1の使用でφ12.7の配管と、ジョイント2の使用でφ9.52の配管との接続が可能になります。

5. 作業方法

R22機→R404A機の場合

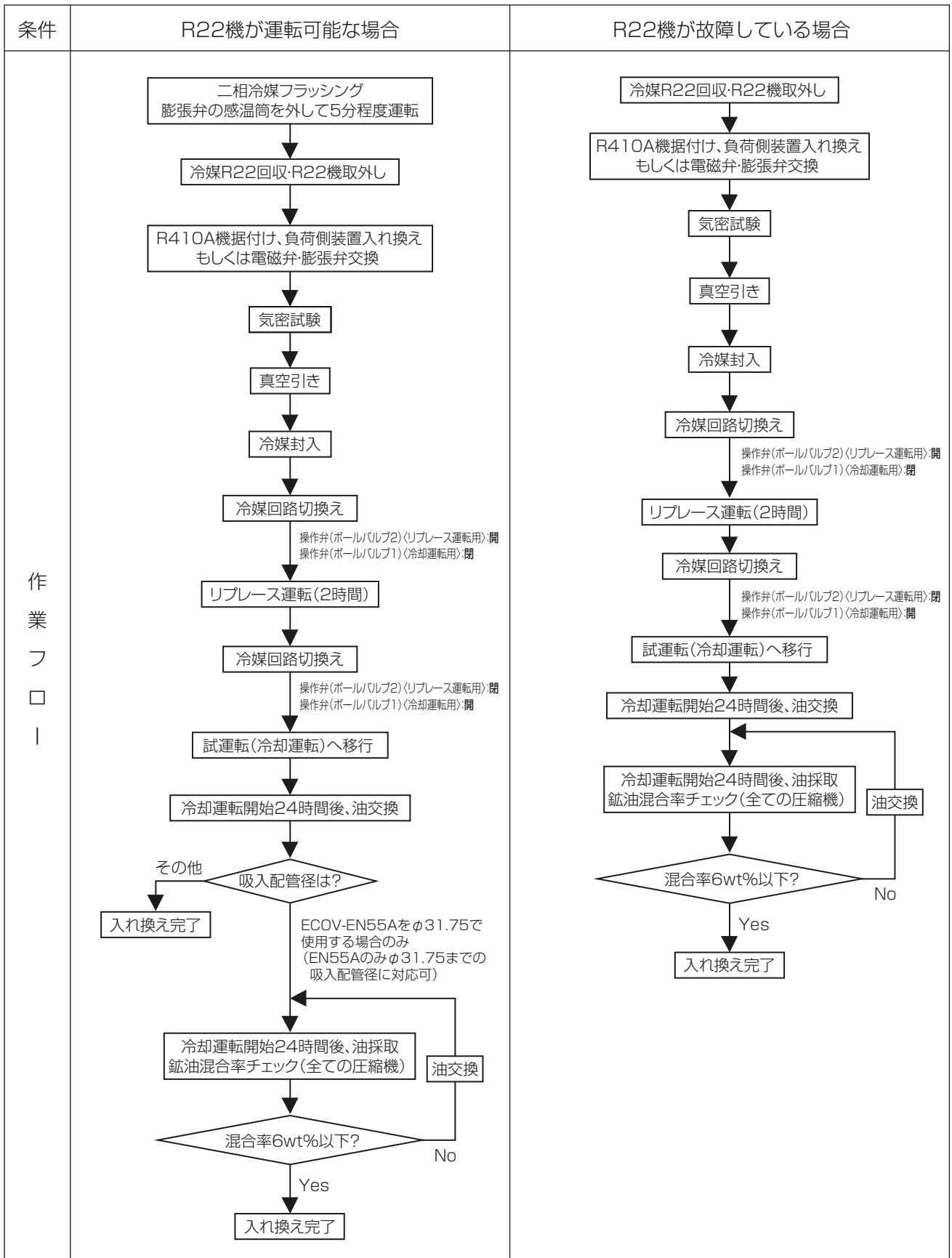
以下のフローに従って作業を実施してください。



注. 気密試験、真空引きおよび冷媒封入の方法は、接続するコンデンシングユニットの据付工事説明書に従い実施してください。
ただし、気密試験、真空引きおよび冷媒封入時は、本製品のボールバルブ1および2を開いた状態(出荷時設定)で実施してください。

R22機→R410A機(3.7kW~6.7kW)の場合

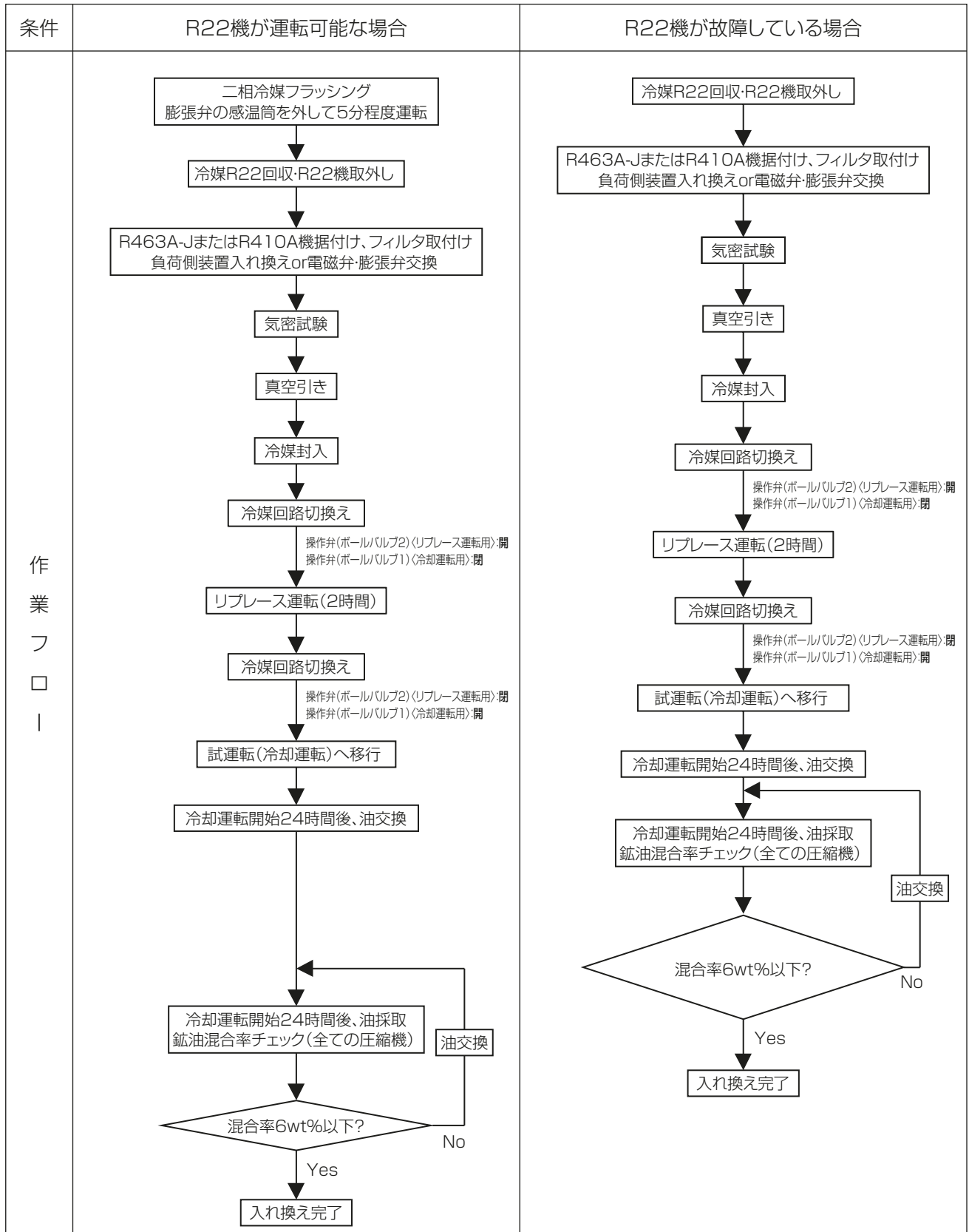
以下のフローに従って作業を実施してください。



注. 気密試験、真空引きおよび冷媒封入の方法は、接続するコンデンシングユニットの据付工事説明書に従い実施してください。
ただし、気密試験、真空引きおよび冷媒封入時は、本製品のボールバルブ1および2を開いた状態（出荷時設定）で実施してください。

R22機→R463A-JまたはR410A機(2.2kW、3.0kW、7.5kW～33.5kW)の場合

以下のフローに従って作業を実施してください。

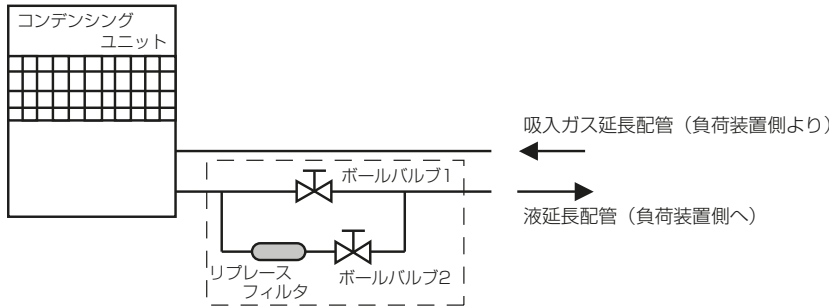


注. 気密試験、真空引きおよび冷媒封入の方法は、接続するコンデンシングユニットの据付工事説明書に従い実施してください。
ただし、気密試験、真空引きおよび冷媒封入時は、本製品のボールバルブ1および2を開いた状態(出荷時設定)で実施してください。

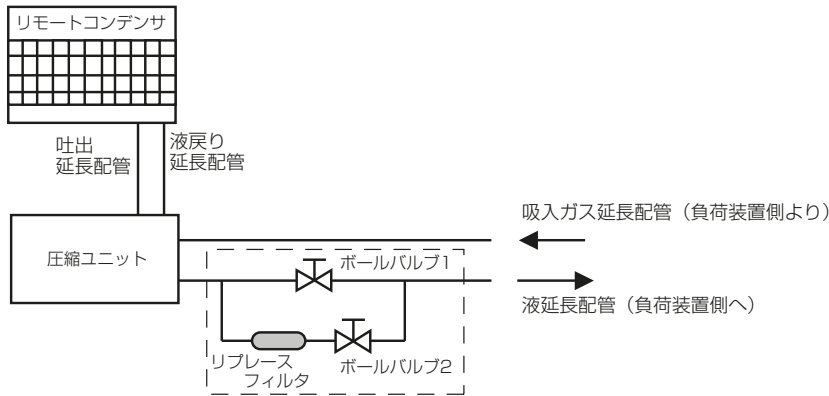
6.フィルタの取付方法

フィルタは下図のとおり、コンデンシングユニット（または圧縮ユニット）の液出口配管へ取付けてください。
 吸入配管へ取付けると、異物が十分に除去されませんので必ず液管側へ設置してください。
 なお、フィルタには冷媒の流れ方向がありますので、本体の表示および下図に従って、流れ方向に注意して取付けてください。

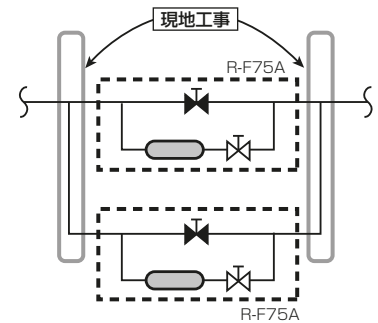
・ 一体空冷機の場合



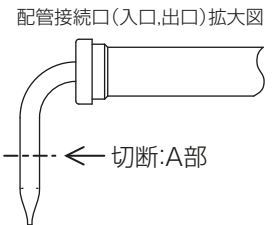
・ リモート機の場合



・ リプレースフィルタ並列仕様の場合

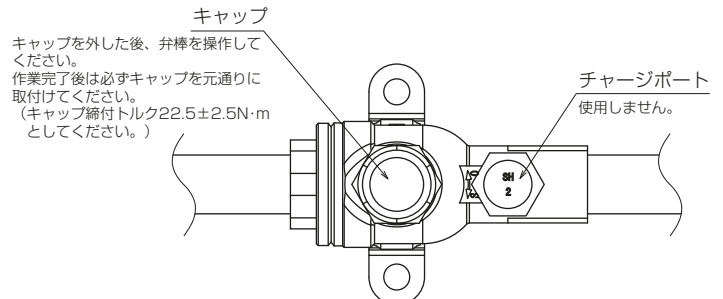
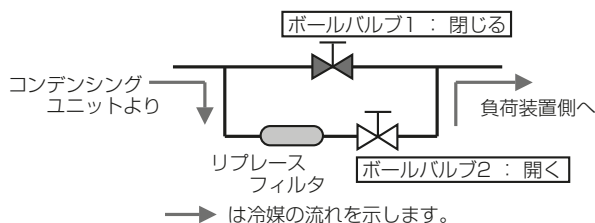


- 注 1) 工場出荷時、ユニット本体には乾燥窒素ガスを封入してあります。
 水分や異物の混入を防止するため、配管接続直前までは、開放しないでください。
 2) 配管接続時は、ユニット内の封入ガスがなくなったことを確認したうえで、
 溶接等を実施してください。
 必ずA部より配管を切断して、内部ガスを抜いたあと、ロウ付部を取外し、
 配管を接続してください。

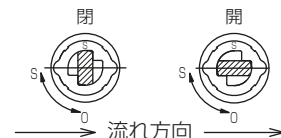


7.リプレース運転の実施方法

気密試験、真空引きおよび冷媒封入後に下図のとおりボールバルブの操作（ボールバルブ1を閉じ、ボールバルブ2を開く）により運転回路を切換え後、リプレース運転を2時間実施してください。なお、リプレース運転の運転状態は通常の冷却運転と同じです。



ボールバルブの開閉状態は下図の通りです。

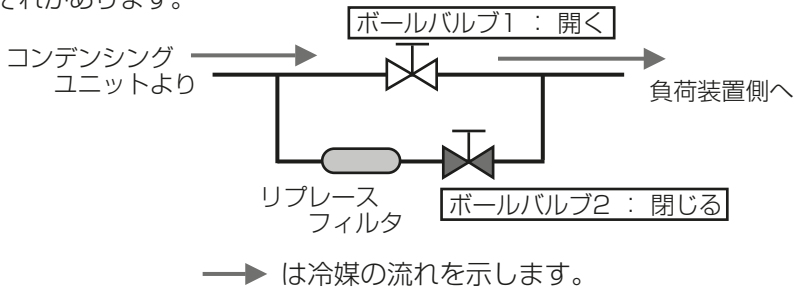


ボールバルブの操作

8.冷却運転への移行

2時間のリプレース運転完了後、下図のとおりボールバルブの操作（ボールバルブ1を開き、ボールバルブ2を閉じる）により冷却運転の冷媒回路へ切換えて、試運転（冷却運転）へ移行してください。

リプレース運転終了後は、必ず冷媒回路を冷却運転回路へ切換えてください。フィルタを通したままで冷却運転を継続すると、過大な圧力損失による冷却不良の他、フィルタに吸着された異物の流出により冷凍機油が劣化するおそれがあります。



本フィルタユニットを取外すことも可能です。この場合は取外した部分の配管を新規に接続し、真空引きを再度実施してください。なお、フィルタを取外した場合は以下の点に注意してください。

- ・ **フィルタは他の系統で再利用しないでください。**
再利用すると吸着した異物の流出により冷凍機油が劣化するおそれがあります。
- ・ **使用後のフィルタユニットの両端を閉じたまま放置しないでください。**
冷媒や油による破裂の可能性があります。
- ・ **フィルタの廃棄は産業廃棄物処理業者へ依頼してください。**

9.油交換について

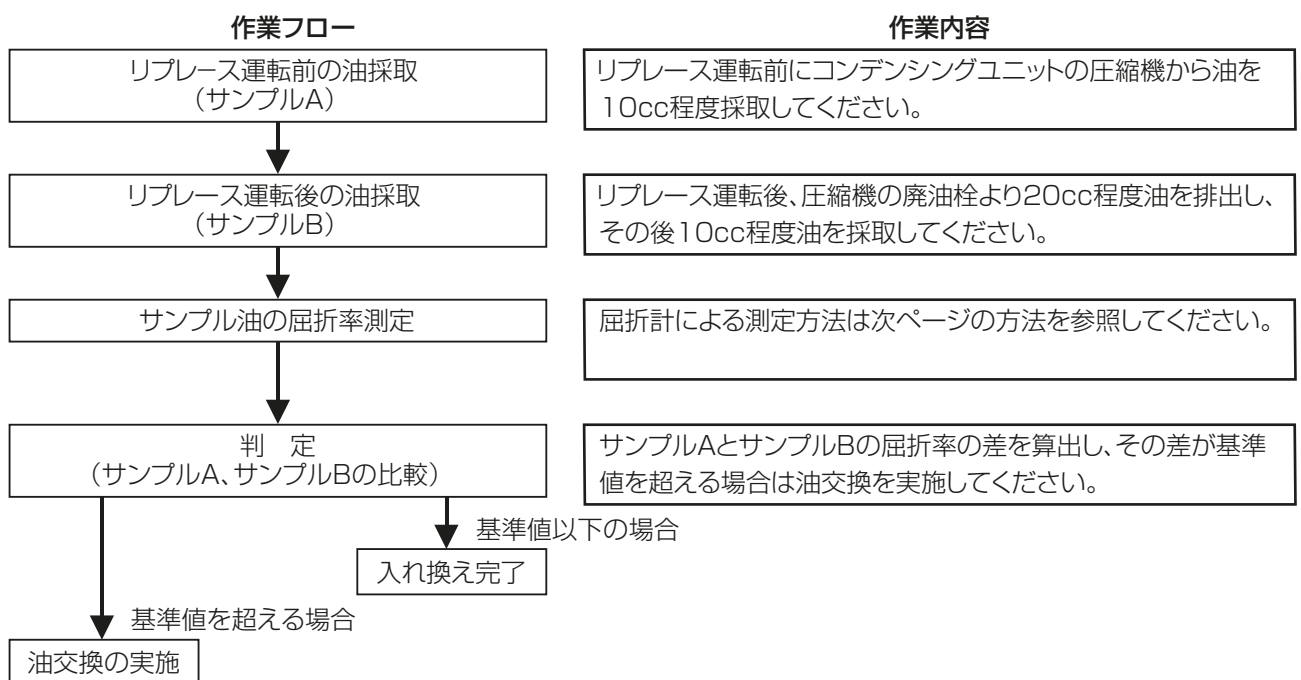
「5.作業方法」の作業フローに記載のとおり、冷却運転開始から24時間以上経過後に圧縮機内の油交換を実施してください。

また入れ換え前のコンデンシングユニットが故障していた場合や、使用範囲を超える条件で本フィルターを使用した場合は、上記油交換後の冷却運転再開からさらに24時間以上経過した後に圧縮機より油を少量採取し、鉱油混合率をチェックしてください（チェックの方法は10項の方法に従ってください）。この鉱油混合率チェックの結果、鉱油混合率が基準値以下の場合にはリプレース作業完了です。基準値を超えていた場合は油交換を実施し、さらに24時間後に鉱油混合率のチェックを実施してください。必ず鉱油の混合率が基準値になるまで油交換を実施してください。

	鉱油混合率
R410A	6wt%以下
R404A	10wt%以下

10.鉱油混合率のチェック方法

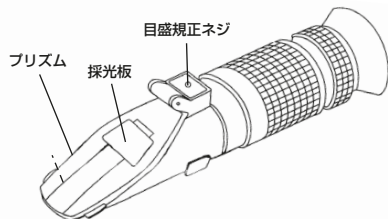
以下の手順に従い、鉱油混合率をチェックしてください。



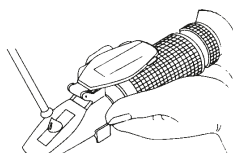
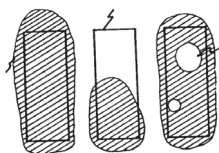
〈基準値〉 0.0027(MEL32RでR410Aの場合)
0.0045(MEL32RでR404Aの場合)
0.0033(FVC32EAでR463A-JまたはR410Aの場合)

○手持ち屈折計による測定方法

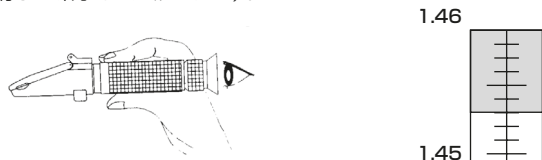
推奨する手持屈折計:株式会社アタゴ製 製品名:MASTER-RIまたはN-3000E



- ①圧縮機より採取した油を屈折率計のプリズム面に数滴下してください。
油がプリズム面全体に広がるようにつけてください。



- ②屈折計の採光板を閉じ、接眼鏡を覗いて目盛を読んでください。
屈折計の先端を明るい方向へ向け、接眼鏡を覗きながら、接眼鏡を回して目盛がはっきり見えるように調整してください。
視野には明暗を上下に2分する境界線が現れます。この境界線が示す目盛がサンプルの屈折率を表します(目盛は小数点以下4桁まで読んでください)。



- ※屈折計による測定時は以下の点にご注意ください。
・屈折計の取扱いは取扱説明書に従ってください。
・油中に溶け込んでいる冷媒を取除いてください(冷媒が混入していると、正しく測定できません)。
・サンプルAとサンプルBは同じ温度(何℃でも可)にしてください(屈折率は温度に依存します)。

○参考…鉱油混合率と屈折率の関係の目安

下表に温度20℃での鉱油混合率と屈折率の関係を示します。

[冷凍機油がMEL32Rの場合]

- ①R22機がSUNISO 3GSDを使用していた場合。

	R404A, R410Aシステム内へのSUNISO 3GSD混合率														
	0%	1%	2%	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%	10%	15%	20%	100%	
屈折率	1.4520	1.4524	1.4529	1.4534	1.4538	1.4542	1.4547	1.4551	1.4556	1.456	1.4565	1.4587	1.4609	1.4965	

- ②R22機がバーレルフリーズ 32SAMを使用していた場合。

	R404A, R410Aシステム内へのバーレルフリーズ 32SAM混合率														
	0%	1%	2%	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%	10%	15%	20%	100%	
屈折率	1.4520	1.4524	1.4528	1.4534	1.4537	1.4541	1.4545	1.4549	1.4554	1.4558	1.4562	1.4583	1.4604	1.4940	

[冷凍機油がFVC32EAの場合]

- ①R22機がSUNISO 3GSDを使用していた場合。

	R463A-JまたはR410Aシステム内へのSUNISO 3GSD混合率														
	0%	1%	2%	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%	10%	15%	20%	100%	
屈折率	1.4415	1.4421	1.4426	1.4432	1.4437	1.4443	1.4448	1.4454	1.4459	1.4465	1.447	1.4498	1.4525	1.4965	

- ②R22機がバーレルフリーズ 32SAMを使用していた場合。

	R463A-JまたはR410Aシステム内へのバーレルフリーズ 32SAM混合率														
	0%	1%	2%	3%	4%	5%	6%	7%	8%	9%	10%	15%	20%	100%	
屈折率	1.4415	1.4420	1.4426	1.4431	1.4436	1.4441	1.4447	1.4452	1.4457	1.4462	1.4468	1.4494	1.4520	1.4940	

※鉱油混合率と屈折率の関係は温度に依存するため、表中の値は目安です。

チェックシート

No	チェック内容	チェック欄
1. 事前チェック	1 既設配管の肉厚はHFCコンデンシングユニットの基準を満たしていますか？	
	2 既設配管にヘコミ・割れ・腐食はありませんか？ または、補修を実施しましたか？	
	3 既設配管はHFCコンデンシングユニットの施工基準を満足していますか？ 施工基準の詳細はコンデンシングユニットの据付工事説明書を参照ください。	
	4 既設のコンデンシングユニットは運転可能な状態ですか？	
	5 負荷装置（ショーケース、ユニットクーラ）はHFC対応品へ入れ換えしますか？ 再利用する場合、メーカー確認と改造（電磁弁・膨張弁交換）を実施しますか？	
2. リブレース運転	1 既設のコンデンシングユニットにおいて膨張弁の感温筒を外したフラッシング運転を実施しましたか？	
	2 リブレースフィルターを液管へ設置しましたか？	
	3 リブレース運転時間： 時間	
	4 リブレース運転後、冷媒回路を切換えましたか？	

ご不明な点がございましたらお客様相談窓口（別紙）にお問い合わせください。

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

三菱電機株式会社

〒640-8686 和歌山市手平6-5-66冷熱システム製作所